

氷川神社  
社報 第二十二号

# 武蔵一宮



# 大宮のお茶文化と氷川神社献茶式

明治初期頃、製茶は旧大宮市域のほぼ全域で行われており、主要産業の一つでありました。その生産量は約六千貫(二二、三〇〇kg)で、その後明治二十四年には日進・大砂土・指扇・宮原村などを中心に約三万四千貫(一二八、〇〇〇kg)まで約5.7倍に増加しております。当社周辺にも茶畑があり、御神水で湯を沸かしお茶を点て神前に捧げる献茶式が行われるようになりました。中でも埼玉県茶道協会は昭和二十一年に始められた「氷川献茶会」を母体として発足致しました。

コロナ禍となつてからは大勢の参加者を集めての献茶式や茶会は実施出来ない状況が続いておりましたが、本年は勅使齋館及び呉竹荘での各協会、団体の茶会が相次いで開催されております。

現在も長く続くウイルスとの戦いの中にあつながら、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が起こるなど、世界には緊張が走る状況ですが、和敬清寂の如く、互いを敬い尊重しあう事が大切です。一日も早いコロナの終息とウクライナに平和な日々が戻る事をお祈り致します。



埼玉県茶道協会 春の茶会 (5/7)



埼玉県煎茶道連盟献茶式 (5/15)



大日本茶道学会埼玉県支部連合会茶会 (5/29)



裏千家淡交会埼玉県支部献茶式 (6/4)

五月 七日

埼玉県茶道協会主催春の茶会  
参加者 さいたま市長清水勇人様他、約三百三十名  
(裏千家 新田宗麗、江戸千家 増淵宗洋、表千家 右田宗澄)

五月 十五日

埼玉県煎茶道連盟献茶式  
創立五十周年記念茶会

参加者 さいたま市長清水勇人様他、約二百名  
(八雲清雅会 石井清雲、方円流・紅茶席 藤崎美園)

五月二十九日

大日本茶道学会埼玉県支部連合会主催茶会  
(濃茶 川越支部 薄茶 大宮支部 秩父支部)

参加者 約二百名

六月 四日

裏千家淡交会埼玉県支部献茶式  
碧流齋伊住宗陽様御奉仕

参加者 約三百五十名



祭事曆

当社では毎日の日供祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

- 四月 一日 月次祭
- 三月 神武天皇祭遙拝式
- 五日〜七日 鎮花祭
- 九日 埼玉県護国神社例祭
- 十五日 献詠祭(兼題 花見)
- 二十九日 昭和祭
- 五月 一日 月次祭
- 五日 祝子祭
- 九日 御鎮座祭
- 十五日 献詠祭(兼題 茶摘み)
- 二十一日 道饗祭
- 六月 一日 月次祭
- 五日 粽神事
- 十五日 献詠祭(兼題 早苗)
- 三十日 大祓式
- 茅の輪設置期間
- 六月十八日〜七月三日



埼玉県護国神社例祭齋行

埼玉県護国神社では昭和九年四月九日の鎮座招魂祭を例祭日として、毎年、厳肅な祭典を執行、祭典中には平和を祈る「浦安の舞」を奉奏致します。

本年も午前十時より神社本庁の献幣使として、さいたま市岩槻区鎮座の武蔵第六天神社宮司高梨佳樹様参向のもと例祭を齋行致しました。祭典前には参議院議員で一般財団法人日本遺族会会長の水落敏栄様より御挨拶を賜りました。

その中で、上皇后陛下が御自身の傘寿のお祝いの際に記者会より、国内外での慰霊の旅と翌年に戦後七十年を迎える事についてお気持ちを尋ねられ、「世界のいさかひの多くが何らかの報復という形をとってくり返し行われて来た中で、わが国の遺族会が一貫して平和で戦争のない世界を願って活動を続けて来た事を尊く思っています。」とお答えになられた事に言及されました。

ウイルスと人類の戦いも終わらない中で起きたロシアのウクライナへの軍事侵攻が収束し、一日も早く世界が平和になるようこれからも祈りを捧げて参ります。



社頭往来

大宮剣道連盟奉納演武

四月三日午後二時、大宮剣道連盟中村好一会長他演武者が正式参拝を行い、日本剣道形打太刀吉岡和男氏、仕太刀吉岡将輝氏による日本剣道形が奉納されました。昭和十一年より高野佐三郎先生ご臨席の下、境内で実施してきた剣道大会は現在大宮武道館で行われております。



幸せの四社巡り

四月四日より特別御朱印「幸せの四社巡り」の授与を開始致しました。当社の他、東京大神宮(東京)、櫻木神社(千葉)、報徳二宮神社(神奈川)の全都三県を巡る御朱印で、すべて巡ると記念品を進呈致します。八月三十一日までの期間限定です。



大成神楽奉納

四月七日、神楽殿にて大成三丁目囃子連による里神楽の奉納が行われました。



盆栽まつり

五月三日より五日までさいたま市主催の「盆栽春まつり」が開催されました。参道では盆栽展示の他、ワークショップが開催、舞殿には盆栽師の平尾成志氏の盆栽が奉納展示されました。





小笠原教場百々手式

五月七日、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠様主催の、墓目の儀並びに百々手式が小笠原教場会員約三十名により奉納されました。



特別紙朱印「ほたる」

五月十四日より数量限定の特

別紙朱印「ほたる」の授与を開始、二十九日に終了致しました。



ほたるの会清掃奉仕

五月二十一日、氷川ほたるの会会員により神池及び水路周辺の清掃奉仕が行われました。



稲荷神社鳥居奉納奉告祭

五月二十七日、稲荷神社にて今般鳥居の奉納を頂きました株式会社柘徳様、小島峻様参列のもと、奉告祭を執り行いました。

大宮新能

五月二十七日、二十八日、舞殿にて公益社団法人さいたま観光国際協会主催の第四十一回大宮新能が開催されました。

奉納演目

五月二十七日(金)

素謡(金春流)翁 金春 憲和

狂言(和泉流)二人大名 野村太一郎

能(宝生流)葵上 藤井 雅之

五月二十八日(土)

素謡(金春流)翁 本田 光洋



狂言(和泉流)舟ふな 野村 万作  
能(金春流)船弁慶 金春 安明



金春流「船弁慶」

金春流「素謡 翁」



螢放生祭実行 螢鑑賞会開催 開催開催

六月四日、舞殿にて螢放生祭を行いました。その後、氷川ほとるの会会員により神池の西側にゲンジボタル約千二百頭が放されました。三年ぶりとなる螢鑑賞会は四日、五日に行われ、あわせて参道では氷川マルシェが開催されました。本年はウクレイナから避難された方々や海外からの留学生を招待し、世界平和を祈念致しました。



特別紙朱印「茅の輪くぐり」  
茅の輪守授与開始

六月十八日、茅の輪設置にあわせて特別紙朱印「茅の輪くぐり」並びに茅の輪守の授与を開始致しました。紙朱印は三十日に終了、茅の輪守(小)は七月二日に終了致しました。



神社関係者大会



茅の輪守(大)



茅の輪守(小)



書元会書道廻廊展示

六月二十二日、飯能市市民会館にて第四十三回埼玉県神社関係者大会が開催され、本年は当社より責任役員の清水賢一様が表彰されました。

六月二十九日から七月二日まで例年、大祓式に合わせ展示される書元会による書道の廻廊展示が行われました。今回は小学一年生から中学三年生までの会員の作品で「いけ」、「とりい」、「かみさま」、「手ならい」、「神社」、「力強い字」、「古代神話」、「書道芸術」が兼題となりました。





四月の奉納献華



会藤松流古  
池坊月流  
草古桂

豊花俊  
智草華  
波山林  
理冲小

流古桂  
流月草  
流風正  
流草春

花典高橋  
峰尚竹下  
光生桐  
彩春栗原

牡丹奉納

此度、有限会社大成造園様より牡丹の奉納を頂きました。御篤志に厚く御礼申し上げます。



五月の奉納献華



会藤松流古  
池坊月流  
草古桂

流古桂  
流月草  
流風正  
流草春

花典高橋  
峰尚竹下  
光生桐  
彩春栗原

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様  
の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・高鼻町二丁目自治会
- ・高鼻町二丁目友の会
- ・みずほ証券(株)
- ・武蔵コーポレーション(株)

六月の奉納献華



会藤松流古  
池坊月流  
草古桂  
桂古流  
桂古流  
草月流  
草春流

豊花俊  
智草華  
波山林  
理冲小  
典花高橋  
峰尚竹下  
光生桐  
彩春栗原

参道植樹

参道に植樹を致しました。

- ・ミツバツツジ
- ・クルメツツジ
- ・ヒラドツツジ
- ・バイカウツギ
- ・ヤマブキ
- ・ツバキ
- ・サザンカ
- ・オチャノキ
- ・レンギョウ
- ・ノリウツギ
- ・モクレン
- ・コケチナシ
- ・フヨウ
- ・ハギ
- ・オムラサキツツジ
- ・コデマリ
- ・ユキヤナギ
- ・ミツマタ
- ・(黄・白)

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

四月 一日 埼玉県神社庁長高麗文康

三日 大宮剣道連盟

十日 武蔵菊花会菊作り研修会

十二日 敬神婦人会監査会

十三日 北足立郡市総代会

十四日 埼玉県神社庁北足立支部

二十日 敬神婦人会

敬神婦人会総会

五月 七日 小笠原流教場

九日 氏子青年会役員会

十五日 武蔵菊花会菊作り研修会

二十一日 氷川ホテルの会

氏子青年会監査会

二十三日 監査会

二十八日 解脫会埼玉教区女性部

二十九日 大宮新能関係者

氏子青年会

責任役員会

敬神講社理事會

氏子総代会並評議員会

六月十四日 埼玉県神社庁北足立支部役員会

埼玉県神社庁北足立支部決算総会

稲毛神社敬神婦人会(神奈川県)

十七日 武蔵菊花会菊作り研修会

十九日 氏子総代会並評議員会

二十五日 氏子総代会並評議員会

三十日 毎日興業株式会社

結婚式の御案内 六月より「八雲の舞」開始（本殿挙式のみ）



参進時の傘差し掛け

令和5年2月からの  
挙式時間は以下  
(本殿・儀式殿共通)

- 10:00
- 10:40
- 11:20
- 13:00
- 13:40
- 14:20
- 15:00



六月の本殿挙式より八雲の舞の奉奏と参進時の傘の差し掛けを開始致しました。

八雲の舞は鈴舞で、御祭神の八雲の神詠を今様調で歌い、龍笛と和琴で奏めます。

傘の差し掛けは三の鳥居から楼門までの奉仕で、雨や強風では中止となります。

また、令和五年二月から、現在三十分ごとに午前中は十時から十一時半まで、午後は一時半から三時までの挙式時間は左記の通り変更になります。



五月三日十時半、十四時に本殿での模擬挙式を行いました。また、新規相談会と見学会、あわせて美容スタッフがモデルをもとに伝統的な文金高島田の解説を行う和髪セミナーを行いました。

これに先立ち、四月二十三日には人力車で参道を通り、大宮駅東口に新たにオープンした大宮門街などでプロモーションを行いました。





## 神宮大麻頒布一五〇周年に寄せて(二) 神棚とは

令和四年は、伊勢の神宮の御神札である「神宮大麻」が明治五年より全国の御家庭に配られるようになってから一五〇周年にあたります。御神札やお守りなど、身近であつても説明すると難しいものです。今号では神棚について御説明致します。

### 神棚について

神棚は本来、正月の年神棚や盆棚など先祖の祭りにおいて臨時に設置されるものでした。本家の司祭の下に同族が集まって行っていたため、各戸に祀る事が一般的ではありませんでしたが中世以降、伊勢の御師により頒布された御祓大麻(神宮大麻の原形)を供える場所が必要となり神棚が設置されるようになりました。神棚を大神宮棚と呼ぶのは神宮大麻を祀る事を目的としたためです。当初は分霊を勧請するという意味ではなく、神聖な御祈禱の證を他と区別して安置する事を目的としておりましたが、江戸時代には神符とみなされ他の神社の神符とあわせて祀られるようになりました。

文献での神棚を奉斎した初見としては『古事記』上巻の「御倉板筆之神」で、伊邪那岐神が天照大御神、月読命、須佐之男命の三貴子に分治を命じた際に、天照大御神にお授けになられた首飾りです。この名には御倉の棚の上に安置する神という意味があります。つまり、伊邪那岐神から賜った神聖な宝物が神様として棚に祀られたという事です。

家庭の中の神棚としては、御神札を祀る神棚の他、荒神様を台所に、厠の神をトイレになど様々な場所に設置、宮形も様々な種類に分かれております。また祖先祭祀は神棚ではなく、別に祖霊舎を設け祀ります。

### 一生に一度はお伊勢参り ― 各地に残る伊勢講の記憶 ―

伊勢の御師は平安時代末には全国各地で祈禱を行ってまいりました。鎌倉時代末には伊勢講の初出が確認されており、伊勢の神領や神明社の全国的な広がりによって伊勢参宮が起こり、これを仲介する御師の活動により一層組織化されていきました。江戸時代後期には全国の世帯の約九割が御祓大麻を受けていたと考えられています。参宮は「おかげまいり」や「ええじゃないか」とも呼ばれ、村落ごとに「伊勢講」や「太々講」が組織され参宮が行われました。この頃の御師は、神宮の奉仕以外に全国からの参詣者の案内や神楽奉奏、宿泊の提供なども行っていました。

参宮の記録は各村の鎮守の社の境内に石碑や扁額、灯笼、狛犬、鳥居、社号、手水、幟立、玉垣、絵馬など様々な形で記念として残されており、埼玉県神道青年会がまとめた『埼玉県の伊勢講』によると、県内の神社八七五社に一七八八点あり、当社のあつた北足立郡に限っても、一六八社に三三三三点残っています。



賀茂神社 石碑(大正三年)



鷺神社 狛犬(嘉永二酉年)



上小町氷川神社鳥居  
(明治三十一年)

# 戦国期までの武士の信仰と氷川神社

上代の事は詳らかではありませんが、治承四年(一一八〇)源頼朝公が土肥次郎実平を奉行に命じて社殿を再建しており、『新編武蔵風土記稿』などに記述がみられます。

その後、執権となる北条氏も元寇の脅威があった事から、異国降伏祈禱を行い、続く足利氏も社領の寄進を行っております。

戦国期の太田氏は潮田氏が在地領主であり、寿能城を築いた潮田資忠は岩槻城主の太田資正の三男または四男でした。『東角井家系図』によると、永禄五年(一五六二)の小田原北条氏による岩槻攻めの時に、東角井家当主の成臣を始め神社の社人が岩槻・寿能両城に農兵とともに加勢すると、その反撃として社頭や居宅が焼き払われ、貴重な記録や資料などが失われてしまいました。

その後には太田氏と北条氏は和睦、実質的に太田氏は北条氏の支配下に入っていました。天正二年(一五七四)の『北条家裁許状』はそのような中で出されたもので、潮田氏による当社への支配を北条氏によって承認されたものです。潮田氏は北条氏方の武将として行動し、天正十八年(一五九〇)の豊臣秀吉の小田原城攻めの際に資忠とその子、資勝は小田原城で討ち死に、二男の資政は家臣の北澤宮内と加藤大学によって寿能城から落ち延び、江戸時代になると古河藩土井家の家老職を務める事となりました。



新編武蔵風土記稿



東角井家系図



北条家裁許状

## 源氏の武将が勧請した分社

武蔵国内には武将が勧請した氷川神社の分社がございます。

鴻巣市箕田の氷川八幡神社は源経基により氷川神社が勧請、明治六年に八幡社と合祀され氷川八幡神社と改称致しました。源経基は、清和源氏の祖にして「六孫王」と呼ばれます。

鴻巣市大間の大野神社は元来氷川神社と称しておりました。天慶元年(九三八)に嵯峨天皇の末流で、源経基の家臣として武功を上げ、箕田源氏の祖となる源仕(みよのうぢ)が大己貴命の託宣により社を造営されました。社名の「大野」は明治四十年に北中野の津門社を合祀したため、大間と北中野から一字ずつ採り大野神社と改称致しました。箕田源氏三代とは仕、仕の子である宛、宛の子で酒呑童子退治などで有名な綱(渡辺綱)を指します。

港区の麻布氷川神社は天慶元年(九三八)に源経基により創建されました。

中野区の東中野氷川神社は旧中野村の総鎮守の社で、長元三年(一〇三〇)に源頼信が平忠常征討の際に当社より勧請されました。



地域の氏神社紹介 ④

氷川神社は武蔵国の一宮として広く守護しておりますが、地域には当社以外にも古くから「村の鎮守」、地域の氏神様として祀られている神社がございます。

南方神社

鎮座地

さいたま市北区

由緒

吉野町二一五―一四  
創建は不詳だが、信濃国諏訪大社の分霊を当地吉野原村鈴木に祀ったもので、『風土記稿』には南方神社は不動院持ちとある。社殿は嘉永年間（一八四八―一五四）に改修、覆屋を拝殿とし唐破風屋根を付けた。平成三年に幣殿・本殿を造営。社名の南方は祭神の「（たけ）みなかた」に由来。



御祭神 建御名方命

小深作神明神社

鎮座地

さいたま市見沼区

由緒

小深作六〇四  
創建は不詳だが、化政期（二八〇四―三〇）の『風土記稿』には神明社は慈眼寺持ちとあるが、同寺は明治初年に廃寺となっている。明治四十三年に本拝殿を新築、本殿は神明造で、新築当時の茅葺を平成三年に銅板葺としている。境内には桜が多く、春を美しく彩る。



御祭神 天照大御神

湯殿神社

鎮座地

さいたま市見沼区

由緒

東門前三五六  
当地は江戸初期に風渡野村から分村し門前村となった。村名の由来は社領二十三石の鷲明神社だが、分村時に風渡野村に遷座した為修験者が山形県の湯殿三所権現を勧請したと伝わる。祭神名の「志那」は息の長いという意味、風は神の息である事から風雨守護とされる。



御祭神 大山祇命・月読命・志那都比古命・志那都比売命

新堤稻荷神社

鎮座地

さいたま市見沼区

由緒

新堤一〇九  
創建は永祿九年（一五六六）の織田軍の攻撃により、伊勢国長島より下野国足利、武蔵国岩槻領慈恩寺などに身を潜め土着帰農した武士の家々と伝わる。社殿は二間四方の寄棟造、本殿は朱塗りの一間社流造。「胡蝶の舞」、「太々神楽」、「浦島太郎と乙姫図」などの奉納額がある。



御祭神 倉稻魂命

本殿での御祈禱



ロケーション撮影は中村写真館で承ります。貸衣裳・着付け・写真撮影がセットになったプランもご紹介します。



九月一日より七五三の祈禱では左の授与品をお渡し致します。特別態勢日は本殿での御祈禱になります。詳しくはホームページの特設ページを御覧下さい。

七五三祈禱の御案内

観月雅楽演奏会

- 一、日時 10月11日(火)17時30分
- 一、会場 舞殿 入場無料
- 一、曲目 神楽 浦安の舞  
管弦 平調 音取  
越殿楽  
陪臚  
舞楽 迦陵頻  
(曲目は予定です)



迦陵頻



浦安の舞

第二十三号は十月十五日発行予定です



今年のカルガモは6月10日にひょうたん池に引っ越して来ましたが、白鳥池に移動しました。

今後の特別紙朱印は右の2種類を授与予定です(各500円)。

最新のお知らせはホームページ、SNSで御案内致します。



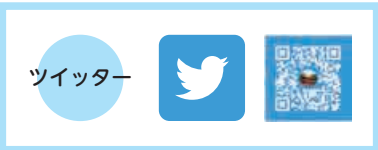
特別紙朱印  
「満月と蘭陵王」

9月10日授与開始予定



特別紙朱印  
「紅葉」

10月8日授与開始予定



発行 令和4年7月15日 発行所 氷川神社社務所

写真協力 工藤裕之 宮野信昭 中村写真館 印刷所 株式会社 秀飯舎

さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>